一般質問について

実施日時：令和８年６月１０日（水）午前９時３０分

一般質問項目一覧

No.	分類	質問	詳細ページ
1	質問	観光地としてのまちづくりについて	Ｐ３

観光地としてのまちづくりについて（１）

- 質問の目的：本町の財政状況を鑑み、基幹産業である観光産業の発展を考えたとき、観光ハード面の整備が不十分であると考えました

厳しい財政状況

- 人口減少や少子高齢化の影響で大幅な税収の増加が見込めない
- 基幹産業である観光産業を充実させ、自立的な財源を確保することが課題

観光産業の現状

- 色々な観光施策や民間事業者の尽力により、コロナ前の水準まで回復
- 最盛期の活況には至っていない

観光地として

- ソフト面については、行政・経済団体・民間事業者の連携により充実しつつある
- ハード面については、まだまだ開発途上であり、観光産業の長期的な発展を見据えたときに、土台となるハード面のさらなる充実が不可欠

観光地としてのまちづくりについて（２）

- 質問の構成：主に以下の構成で質問しました

町全体に関すること

- 観光消費額の目標額について
- 目指す観光地像について
- 観光ハード整備構想の存在について

駅前エリアについて

- 環境整備の構想について
- 観光客の回遊ルートについて
- 観光客の滞留を生む拠点の構築について

温泉場エリアについて

- 環境整備の構想について

吉浜・福浦海岸エリアについて

- 観光資源としての環境整備の構想について
- 吉浜海岸～千歳川沿いの遊歩道について

観光地としてのまちづくりについて（３）

- 質問の概要及び回答：町全体に関すること

＜質問＞	＜回答＞
湯河原町観光立町推進計画期間の５か年において観光消費額の目標額を伺います	令和６年度の約1,158億円に対し、令和12年度は1,250億円を目標額にしています
本町の観光地像は「静かで落ち着いた温泉地」として質を重視し「過度な集客より付加価値の高い滞在」を目指す認識で正しいか。またそれらは隣接する観光市町との差別化を図るものか	歴史ある温泉地として、自然や文化に触れながら静かに滞在できることが大きな魅力です。また単純に差別化を図るのではなく、互いの観光資源を補完し、周遊観光による誘客を図ることも有効です
湯河原町観光立町推進計画、都市マスタープランの下位に位置付く、観光ハードの整備構想は計画されるか	現時点でそのような構想はありませんが、公共施設建て替え等のタイミングで周辺のハード整備構想が立てられると考えます
良い観光地と、住みやすい街は相反する関係性だと考えます。観光地づくりを進める上でどのように考えますか	産業が存在する中で、様々な住居環境があり、また商業地域の形態も多様であるため、町民の皆さまとよく議論をしながら、共存できるものを考えていきます

観光地としてのまちづくりについて（４）

- 質問の概要及び回答：駅前エリアについて

＜コメント＞
駅前ポケットパークは、平成１１年に全国京都会議に加盟した記念に整備されたが、平成２３年には「さがみの小京都」の使用をやめるに至り、それから１５年経過している。立地が良いため、民間へ貸し出し等も含め次の構想に移った方が良いと考える。

＜質問＞	＜回答＞
商店街の整備や広場以外に滞留を生む拠点の構築など、回遊性を高めるための周辺整備は不十分であると考えます。環境整備を推進する構想はあるか	湯河原駅周辺の活性化は、本町の観光振興において重要な課題であると認識しています。今後は、宿泊税を活用し、商工会が実施する空き家・空き店舗調査結果を踏まえ、関係者と検討していきます
観光客の回遊ルートに関して、町としての狙いや構想はありますか	徒歩圏内であれば、駅から、駅商店街を散策し、千歳通り線・サンサン通りに入り、民間の菓子工場あたりがスポットになると思います
駅前の大屋根広場以外に観光客の滞留を生む拠点の構築が必要です。その中で、町所有の駅前ポケットパーク利活用構想はありますか	駅前ポケットパークは、駅前の眺望や導線の改善を目的として整備し、現在は都市公園に位置付けられていますので、用途変更は考えていません

観光地としてのまちづくりについて（５）

- 質問の概要及び回答：温泉場エリアについて

＜質問＞

無電柱化や万葉公園、湯元通りの整備により、エリア内の回遊性は向上していると考えます。一方で、点在する旅館、飲食店、美術館等をつなぐ施策が必要ですが、環境整備の構想はありますか

次のステップとして、回遊するエリアを拡大するのか、拠点づくりを行っていくのか、商店街の無電柱化の要望等、環境整備を注力していくのか具体的な構想を教えてください

＜回答＞

商工会による空き家・空き店舗調査結果を踏まえ、具体策の検討を進めると共に、これまで培ってきた歴史的・文化的環境を活かしながら、温泉場エリア内をつなぐ施策や、さらには駅周辺とのネットワークづくりを図る検討をし、魅力ある観光拠点づくりを推進します

グランドビジョン的なものではなく、良い意味で自然発生的、歴史的にできたエリアだと思いますので、継続して現状課題を解いていくような形で、まちづくりを行っていくことが重要だと考えます

＜コメント＞
時期は未定だが県の計画では、パッキーボール前～落合橋までの無電柱化が予定されている。それが完成した場合、温泉場エリアの景観がかなり良くなることが期待できるため、引き続き注視したい。

観光地としてのまちづくりについて（６）

- 質問の概要及び回答：吉浜・福浦海岸エリアについて（１）

＜質問＞

＜回答＞

吉浜海岸や福浦海岸は、年間を通して賑わいがありますが、観光地としてのインフラ整備が追い付いていないと感じます。これらを重要な観光資源と捉え、再整備を行う構想はありますか

湯河原の海辺エリアは、重要な観光資源と認識しております。吉浜海岸は、定期的に養浜工事などの環境整備を進めており、現場の課題にも都度、協議調整しております。福浦漁港は、ゆがわら海藻プロジェクトを進めており、新たな産業創出や地域資源の活性化につながる事業と期待しております。併せて漁港の再整備につきましても、これからの課題として引き続き検討します

吉浜の国道沿いは、長年景観に変化がなく、観光地としての環境整備が進んでいないように見受けられます。国道の整備や文化福祉会館の利活用も含めて観光地づくり構想はありますか

国道沿いは海と山に挟まれた狭隘な地形であり、さらに住宅地でもあることから、行政主導による観光地化は難しいと考えます。そのため、まずは吉浜海岸の利用を促進する中で、自然発生的に店舗展開が行われることを期待します

＜コメント＞
国道沿いの行政主導による観光地化は難しいとの回答を受けましたので、文化福祉会館の活用から、中長期的に店舗展開が行われることを期待していきたい。

観光地としてのまちづくりについて（7）

- 質問の概要及び回答：吉浜・福浦海岸エリアについて（2）

＜質問＞

現在、海辺公園遊歩道から千歳川歩道にかけては、地下道が整備されており、徒歩により広範囲に散策されている姿が見受けられます。そこから新崎川を挟んで吉浜海岸へ繋がると周遊ルートが延伸すると考えます

福浦エリアは、近年、観光客の来訪がとても多い状況です。福浦カヅラコ海岸は箱根ジオサイトに登録されており、また中川一政画伯が福浦の住居群を描いた作品も多数残されており、文化的価値もあります。環境、インフラ整備や福浦漁港の再整備について構想はありますか

＜回答＞

海辺公園の東側から新崎川の河口に下りられますが、県の協力により新崎川の河口に飛び石が作られています。現在その飛び石を渡ることで、吉浜海岸に行ける状況です

福浦漁港は適切な整備を行うことで、活性化を図る必要があると考えています。これには国や県の協力が不可欠であるため、本町の状況変化を踏まえ、今後どのような整備が可能か、改めて国・県との協議を進めていきたい考えます

＜コメント＞
福浦漁港の再整備について、行政側の前向きな姿勢を窺えたのことが大変うれしい。まだまだこれから国・県との協議等も必要ではあるが、現在水産庁が進めている「海業（うみぎょう）」の活用も視野に入れて取り組んでいきたい。

観光地としてのまちづくりについて（８）

- 要望の概要及び回答：総括

＜要望＞

観光地づくりというのは、長期的な取り組みであるため、具体的な狙いと、それらを実現する具体的な整備構想というものが必要ではないかと考える。その中で自然発生的なものができあがるというのも理解はできるが、長期的である以上、その根底には町としての強い意志が存在しないと、なかなか実現は難しいと考える。財政的に厳しい状況であることは理解しているが、予算がないから構想・計画が立てられないではなく、構想はあるが、財政がないために、進められないという形が、本来あるべき姿ではないでしょうか。それらを鑑みて、今後、まちづくり計画を進めていただきたい

＜回答＞

温泉場エリアを例として挙げるように、エリアごとに観光地づくりは異なると考えます。道路や歩道整備よりも、例えば駐車場やトイレの整備が優先されるエリアもありますが、駅前や温泉場エリアで一番必要なのは、飲食店だと考えます。そのため、ここで商工会が、空き家・空き店舗調査を実施し具体的な検討を進めていきます。ただし、その場を活性化するのは、行政ではなく、そのエリアを活用し、生業とする方が集まらないといけません。そのような意味で、自然発生的に広がっていくのが望ましい形なのではないかと考えています。しかし、福浦漁港だけは整備の中で、活性化すべきと考えています